

科目名	卒研プレゼンテーション			担当講師
(英名)	PC Excel and Power Pont for Graduation Research			高橋 信浩
学科	バイオテクノロジー科4年制			
開講区分	後期		授業形態	演習
学年	4学年	単位 (総時間)	2単位 (30時間)	選択・必修 必修
授業の目的	卒業研究の卒業論文・PowerPointプレゼンテーションに関連して長文作成支援機能などのWord操作、PowerPoint作成操作等を学ぶ。また、卒業後に必要なIT関係の知識を学ぶ。			
教育内容	全般: ビジネスで多用されているWindows/ Microsoft Office (Word・Excel・PowerPoint) の基本操作を習得する 今期は、卒業研究に必要なWordの基本操作およびPowerPointの基本操作を中心に、関連した事柄について学ぶ			
講義内容(シラバス)				
回数	項目	授業内容		
1	【Word】 1,2年次習得機能の復習	1,2年次に学んだ機能の復習 (表組み、タブリーダー、セクションなど)		
2	卒業研究(論文・発表資料) ビジネス文書関連作成①	【Word】 論文など長文作成に必要な、アウトライン機能・スタイルなどを理解し、習得する。 【PowerPoint】 プレゼンテーションの基本となる、箇条書きスライドの要点を理解する。		
3	卒業研究(論文・発表資料) ビジネス文書関連作成②	【Word】 論文など長文作成に必要な基本操作を習得する (新規スタイル作成、文章の校正、変更履歴など)		
4	卒業研究(論文・発表資料) ビジネス文書関連作成③	【Word】 論文など長文作成に必要な基本操作を習得する (セクション機能、ヘッダー・フッター、ページ番号設定・管理など)		
5	卒業研究(論文・発表資料) ビジネス文書関連作成④	【Word】 論文など長文作成に必要な、アウトライン・項番設定・管理などを理解し、習得する。 【Word】・【PowerPoint】 画像の種類・取り扱い		
6	プレゼンテーション①	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ (効果的な発表の話し方、ノンバーバルコミュニケーションなど)		
7	プレゼンテーション②	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ (質疑応答に関連して、効果的な発問と応答など)		
8	プレゼンテーション③	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ (まとめ)		
9	ITリテラシー①	IT関連の基礎知識を学ぶ (サーバークライアント、ネットワーク、プロトコル、ウイルスなど)		
10	ITリテラシー②	IT関連の基礎知識を学ぶ (セキュリティ、ユーザー認証、パスワードなど)		
11	プレゼンテーション④	【PowerPoint】 発表時に必要な設定について学ぶ (スライドショーの設定、発表時のPC操作、スライドショー実行時の操作方法など)		
12	プレゼンテーション⑤	【PowerPoint】 発表時に必要な設定について学ぶ (マルチモニター環境の構築、発表者ツールの活用など)		
13	卒業研究学内発表会準備作業	学内発表資料の最終準備		
14	卒業研究学外発表準備作業	学外発表のポスター作製手順の説明および作成		
15	期末試験	期末試験		
準備学習 (予習・復習)	習得した操作を、実験レポート・発表用資料作成・その他に活用する			
到達目標	卒業研究、研究発表会(学内・学外)に必要な論文、発表資料、発表に対応できる			
評価方法 評価基準	小テストと定期期末試験(実技)で評価する 小テスト・定期期末試験=20:80			
使用教科書 教材 参考書	学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル			
教員紹介等	株式会社ソフトクワイートにてシステム開発を行い、現在は本校のみならず各所で、フリーとしてもシステム開発やコンピューター教育に従事している。			
その他				

科目名	卒研英語 I			担当講師
(英名)	English of Graduation Research I			篠原 直貴
学科	バイオテクノロジー科4年制			
開講区分	前期		授業形態	講義
学年	4学年	単位 (総時間)	2単位 (30時間)	選択・必修 必修
授業の目的	卒研に関連する情報を英語の科学論文から集めそれを卒業研究に反映させることを学ぶ過程を通して、科学研究の進め方を理解することを目的とします。			
教育内容	科学論文の検索の仕方、読み進め方、理解の仕方をゼミナール形式で学びます。			
講義内容(シラバス)				
回数	項目	授業内容		
1	卒研英語ゼミナール1	科学論文の検索の仕方と、テーマの選択の仕方、読み進め方を解説します。		
2	卒研英語ゼミナール2	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
3	卒研英語ゼミナール3	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
4	卒研英語ゼミナール4	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
5	卒研英語ゼミナール5	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
6	卒研英語ゼミナール6	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
7	卒研英語ゼミナール7	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
8	卒研英語ゼミナール8	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
9	卒研英語ゼミナール9	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
10	卒研英語ゼミナール10	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
11	卒研英語ゼミナール11	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
12	卒研英語ゼミナール12	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
13	卒研英語ゼミナール13	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
14	卒研英語ゼミナール14	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
15	卒研英語ゼミナール15	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
準備学習 (予習・復習)	生物に関連する英語を普段から読んでおくことはよい習慣です。わかるまで読む粘り強さをあわせて身につけましょう。			
到達目標	科学論文を読み研究内容も含めて理解を進められるようになることを目指します。また、わからない状況に至ったときに、自分で解決できるような調べ方を体得します。			
評価方法 評価基準	ゼミナールの発表を通して評価します。			
使用教科書 教材 参考書	共通の教科書はありません。各自で調べた論文をパワーポイントないしハンドアウトして発表します。			
教員紹介等	理学博士 東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。			
その他				

科目名	卒研英語 II			担当講師
(英名)	English of Graduation Research II			篠原 直貴
学科	バイオテクノロジー科4年制			
開講区分	後期		授業形態	講義
学年	4学年	単位 (総時間)	2単位 (30時間)	選択・必修 必修
授業の目的	卒研に関連する情報を英語の科学論文から集めそれを卒業研究に反映させることを学ぶ過程を通して、科学研究の進め方を理解することを目的とします。			
教育内容	科学論文の検索の仕方、読み進め方、理解の仕方をゼミナール形式で学びます。			
講義内容(シラバス)				
回数	項目	授業内容		
1	卒研英語ゼミナール1	前期から引き続きゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
2	卒研英語ゼミナール2	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
3	卒研英語ゼミナール3	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
4	卒研英語ゼミナール4	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
5	卒研英語ゼミナール5	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
6	卒研英語ゼミナール6	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
7	卒研英語ゼミナール7	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
8	卒研英語ゼミナール8	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
9	卒研英語ゼミナール9	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
10	卒研英語ゼミナール10	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
11	卒研英語ゼミナール11	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
12	卒研英語ゼミナール12	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
13	卒研英語ゼミナール13	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
14	卒研英語ゼミナール14	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
15	卒研英語ゼミナール15	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。		
準備学習 (予習・復習)	生物に関連する英語を普段から読んでおくことはよい習慣です。わかるまで読む粘り強さをあわせて身につけましょう。			
到達目標	科学論文を読み研究内容も含めて理解を進められるようになることを目指します。また、わからない状況に至ったときに、自分で解決できるような調べ方を体得します。			
評価方法 評価基準	ゼミナールの発表を通して評価します。			
使用教科書 教材 参考書	共通の教科書はありません。各自で調べた論文をパワーポイントないしハンドアウトして発表します。			
教員紹介等	理学博士 東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。			
その他				

科目名	卒業研究ゼミ			担当講師
(英名)	Seminar of Graduation Research			篠原 直貴
学科	バイオテクノロジー科4年制			
開講区分	前期		授業形態	演習
学年	4学年	単位 (総時間)	2単位 (30時間)	選択・必修 必修
授業の目的	自分の行っている実験を他者に向けて発表することで行動を客観的に記録し改善の手助けにする行動サイクルの大切さを学びます。			
教育内容	卒研で行う実験の予定、結果報告、今後の方針をセミナー形式でグループ内に向けて発表することで、自らが携わっていることに対する理解を深め、情報共有の大切さを理解します。			
講義内容(シラバス)				
回数	項目	授業内容		
1	卒研研究報告セミナー1	研究報告の大切さを学びながら実践します。あわせて生活リズムを整え他者との約束を守ることの大切さを学びます。		
2	卒研研究報告セミナー2	研究報告の大切さを学びながら実践します。あわせて生活リズムを整え他者との約束を守ることの大切さを学びます。		
3	卒研研究報告セミナー3	研究報告の大切さを学びながら実践します。あわせて生活リズムを整え他者との約束を守ることの大切さを学びます。		
4	卒研研究報告セミナー4	研究報告の大切さを学びながら実践します。あわせて生活リズムを整え他者との約束を守ることの大切さを学びます。		
5	卒研研究報告セミナー5	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
6	卒研研究報告セミナー6	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
7	卒研研究報告セミナー7	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
8	卒研研究報告セミナー8	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
9	卒研研究報告セミナー9	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
10	卒研研究報告セミナー10	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
11	卒研研究報告セミナー11	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
12	卒研研究報告セミナー12	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
13	卒研研究報告セミナー13	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
14	卒研研究報告セミナー14	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
15	卒研研究報告セミナー15	実際に割り当てを決めて研究報告をセミナー形式で行います。		
準備学習 (予習・復習)	セミナーの時間に遅れずに出席することの大切さを理解しできないことではなからできるように準備をしましょう。			
到達目標	自立した社会人としてプロ意識をもって研究に携わる姿勢を身につける。			
評価方法 評価基準	ゼミナールの発表を通して評価します。			
使用教科書 教材 参考書				
教員紹介等	理学博士 東北大学大学院生命科学科、神奈川大学理学部などにおいて研究支援者等として実務、研究(植物生理学)活動に従事した。			
その他				

科目名	卒業研究 I			担当講師	
(英名)	Graduation Research I			永井武 篠原直貴 小島尚ほか (インターンシップ教育含む)	
学科	バイオテクノロジー科4年制				
開講区分	前期			授業形態	実習
学年	4学年	単位 (総時間)	12単位 (360時間)	選択・必修	必修
授業の目的	産業界に必要とされる自立した専門職業人となるための問題発見・調査・問題解決能力を身に付け、マナーとスキルを習得し、実践する場として行う。				
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場で求められるコミュニケーションの実践 2. PDCAサイクルの実践 3. 時間管理の徹底 4. 報告、連絡、相談を行い、チームで成果をあげる意識を持つことと行動の実践 				
講義内容(シラバス)					
回数	項目	授業内容			
1	卒業研究の概要	卒業研究の目的確認 卒業研究における運営のルール伝達 担当講師紹介			
2	卒業研究グループづくり	卒業研究テーマの紹介(産学協同先 課題内容 学校指導講師) 学生希望調査 グループづくり			
3	研究計画①	研究計画作成 予算計画 学内プレゼン準備⇒ 学校担当者へのプレゼンテーションによる研究開始の承認を受ける			
4	研究計画②	産学協同先への研究計画プレゼンテーション			
5	研究活動①	研究計画に沿って、物品購入 研究活動を開始する。			
6	研究活動②	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告(プレゼンテーション含む) 			
7	研究活動③				
8	研究活動④				
9	研究活動⑤				
10	研究活動⑥				
11	研究活動⑦	中間発表に向けた研究成果のまとめ 要旨作成			
12	研究活動⑧				
13	研究活動⑨				
14	中間発表	卒業研究前半のまとめのプレゼンテーション 研究の進め方の妥当性、課題抽出、他者が理解できるプレゼンテーションの実施			
15	後期 実験計画作成	中間報告を踏まえて、後期研究活動方針の決定			
準備学習 (予習・復習)	研究計画書 研究報告書による週単位の行動計画、実践、振り返りを繰り返して、成果を出せるように準備をする。				
到達目標	研究計画作成、研究活動、中間発表でのまとめ、研究方針の調整ができる。				
評価方法 評価基準	<p>評価表1(50点)+報告書・計画書(20点)+中間発表(30点)(計100点)</p> <p>インターンシップ生:セルフマネジメント(30点)+チームマネジメント(30点)+実験技術・報告など(40点)</p> <p>履修科目の成績評価をGPに置きかえ、1科目あたりの平均値により、学生の成績を数値化する。</p> <p>GPA算出計算は、成績評価 A:4.0、B:3.0、C:2.0、D:1.0、F:0.0とし、</p> <p>GAP=該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGPの合計÷当該学期評価をうけた各授業科目の単位数の合計</p>				
使用教科書 教材 参考書					
教員紹介等	<p>永井武)獣医師、日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員</p> <p>篠原直貴)理学博士 東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。</p> <p>小島尚)薬学博士。薬剤師。 神奈川県衛生研究所、神奈川県立衛生短期大学等で食品添加物、機能性成分の分析および分析法の開発に従事した。</p>				
その他					

科目名	卒業研究Ⅱ			担当講師	
(英名)	Graduation Research Ⅱ			永井武 篠原直貴 小島尚ほか (インターシップ教育含む)	
学科	バイオテクノロジー科4年制				
開講区分	前期			授業形態	実習
学年	4学年	単位 (総時間)	12単位 (360時間)	選択・必修	必修
授業の目的	産業界に必要とされる自立した専門職業人となるための問題発見・調査・問題解決能力を身に付け、マナーとスキルを習得し、実践する場として行う。				
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場で求められるコミュニケーションの実践 2. PDCAサイクルの実践 3. 時間管理の徹底 4. 報告、連絡、相談を行い、チームで成果をあげる意識を持つことと行動の実践 				
講義内容(シラバス)					
回数	項目	授業内容			
1	研究活動①	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。 			
2	研究活動②				
3	研究活動③				
4	研究活動④				
5	研究活動⑤				
6	研究活動⑥				
7	研究活動⑦				
8	研究活動⑧				
9	研究活動⑨				
10	研究活動⑩				
11	研究活動⑪				
12	研究活動⑫				
13	研究活動⑬				
14	学内卒業研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・下級生、保護者に対して研究成果を口頭発表する。 ・行き手がわかるプレゼンテーション(多数に伝える)を実践する。 			
15	学外卒業研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、研究所、卒業生など東京バイオが関わる業界人にプレゼンテーションする。相手に合わせてプレゼンテーション、その場での問いに適切に回答することを実践する。ポスターセッションによるプレゼンテーションを行う。 			
準備学習 (予習・復習)	研究計画書・研究報告書による週単位の行動計画、実践、振り返りを繰り返して、成果を出せるように準備をする。				
到達目標	研究成果を論文(書く)、口頭発表(多数へのプレゼンテーション)、ポスターセッション(1対1のプレゼンテーション)ができる。 職業人として求められる挨拶、報告、連絡、相談ができる。 職業人としての立ち居振る舞いを意識できる。				
評価方法 評価基準	<p>評価表1(50点)+報告書・計画書(10点)+卒業研究学内発表会(20点)+卒業論文(20点)(計100点)</p> <p>インターシップ生:セルフマネジメント(30点)+チームマネジメント(30点)+実験技術・報告など(40点)</p> <p>+卒業論文の提出+学内外卒業研究発表会</p> <p>履修科目の成績評価をGPに置きかえ、1科目あたりの平均値により、学生の成績を数値化する。</p> <p>GPA算出計算は、成績評価 A:4.0、B:3.0、C:2.0、D:1.0、F:0.0とし、</p> <p>GAP=該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGPの合計÷当該学期評価を受けた各授業科目の単位数の合計</p>				
使用教科書 教材 参考書					
教員紹介等	<p>永井武)獣医師。日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員</p> <p>篠原直貴)理学博士 東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。</p> <p>小島尚)薬学博士。薬剤師。 神奈川県衛生研究所、神奈川県立衛生短期大学等で食品添加物、機能性成分の分析および分析法の開発に従事した。</p>				
その他					